

平和記念だより



◆編集・発行：高松市役所 人権啓発課 平和記念係
◆連絡先：高松市番町一丁目8番15号
TEL: 087-839-2293 FAX: 087-839-2291

高松空襲70周年を迎えて

高松市は、1945（昭和20）年7月4日未明に米軍のB29爆撃機による空襲を受け、旧市街地の約80%が焦土と化し、多くの尊い命と財産が失われました。このことは、永久に忘れることのできない、また、忘れてはならないことであります。

この高松空襲から、今年は70周年の節目の年を迎えます。70年の時の経過とともに、戦争体験者の高齢化がますます進み、また、戦争を知らない世代が大半を占めるようになりました。

このような中、高松空襲などの戦争体験を語り継ぎ、平和を願う市民の心を永久に継承していくことは非常に重要なことから、高松市では、「高松空襲70周年事業」を、高松空襲に被災しました7月4日（土）の午後1時から生涯学習センターまなびCAN多目的ホールで開催いたします。

「悲惨な戦争を二度と起こさないで、平和な世を築いてほしい」という願いから、自身の戦争体験、戦時中の生活の悲惨な実態を語ってくれている語り部の体験談を、後世に継承していくための礎となるような催しにしたいと考えております。詳細は改めてご案内いたしますので、多数の方のご参加をお願いいたします。



【県立高松高等女学校の屋上より北西方向を望む】
（旧高松中学校の焼け跡が見える）

高松空襲の被害状況

爆撃機数	B29爆撃機 116機（うち案内機12機）		
空襲時間	7月4日午前2時56分～4時42分（106分間）		
投下爆弾	通常爆弾24トン・焼夷弾809トン		
被害面積	3.85平方キロ（旧市街地の約80%）		
被害建築物	18,913戸（うち住宅16,418戸）		
	全焼18,505戸（うち住宅16,108戸）		
	半焼408戸（うち住宅310戸）		
罹災者	86,400人	死者	1,359人
負傷者	1,034人	行方不明者	186人



【片原町商店街より三越方面を望む】
（左奥に百十四銀行高松支店）

平成27年度 行事予定



□ 平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭 □

日 時 平成27年 5月23日(土) 午後1時～午後4時
場 所 高松市役所 13階大会議室
内 容 映画上映 「望郷の鐘」
講 演 空襲体験談 吉田 孝子

□ 高松空襲写真展 □

日 時 平成27年 7月1日(水)～7月7日(火)
場 所 高松市生涯学習センター エントランスホール
展示内容 高松空襲に関する被災写真・パネル・絵画の展示

□ 高松空襲70周年事業 □

日 時 平成27年 7月4日(土)
場 所 高松市生涯学習センター 多目的ホール
内 容 未 定

□ 高松市戦争遺品展 □

日 時 平成27年 8月5日(水)～8月11日(火)
場 所 高松市役所 1階市民ホール
展示内容 高松空襲と戦争に関する写真・パネル・資料の展示

□ 高松市収蔵品巡回展 □

日 時 平成27年11月
場 所 未定
展示内容 地区の市民から寄贈されている戦争遺品を中心に公開展示

□ 教職員のための平和教育講演会 □

日 時 平成28年 1月6日(水)
場 所 高松市役所 114会議室
講演内容 講 演 空襲体験談
講 師 高松空襲を記録する会
講 演 未 定

望郷の鐘

戦後、中国残留孤児の帰国に尽力し、『中国残留孤児の父』と呼ばれた山本慈昭さんをモデルにした映画である。

敗戦間近に満蒙開拓団として家族で満州に渡り、ソ連軍の参戦によりシベリアに抑留、帰国するも、家族は無くなったと知らされる。満州で沢山の日本人が中国人によって育てられている事を知った慈昭は、孤児たちの日本帰国救済運動を始める…。

平成27年度 憲法記念 平和を語るつどい 平和映画祭

と き **5月23日(土)**
午後1時～4時 (連日12:30)

と こ **高松市役所 13階大会議室**

内 容 **平和を語るつどい**
戦争・空襲体験談
講師 吉田孝子

上映 **「憲法記念平和映画祭」 望郷の鐘**
山本慈昭 監督
日本PTA全国協議会特別推薦

入場無料
事前申し込みが必須です

主催/高松市 共催/高松市教育委員会 運営/高松市平和を語る市民団体協議会
お問い合わせ 高松市市民政策局 人権啓発課 Tel. (087) 839-2293
Fax. (087) 839-2291

高松市平和を願う市民団体協議会について

『高松市平和を願う市民団体協議会』（以下『願う会』）とは、平和を願う市民の世論を高めるための諸活動を実施し、また、高松市の平和意識の啓発事業を豊かに発展させるため、平成7年7月4日から活動を開始している組織です。

現在は33団体が所属し、高松市のイベントなどにご協力いただいています。

「語り部」の会の活動記録

『願う会』の中の一団体に『高松市戦争体験を語り継ぐ語り部の会』があります。高松市内や香川県内の様々なところから依頼を受け、語り部活動を行っています。平成26年度には、次のような活動がありました。



語り部 (敬称略・50音順)	主な活動内容
岡田 昌子	●7/4 「第25回 高松空襲跡を歩く」（挨拶） ●7/28 「高松市戦争遺品展」（来庁者に向けての解説ボランティア）
喜田 清	●6/27 鶴尾中学校 1年生を対象に ●6/30 平和病院 新規採用職員に向けて ●7/30,8/1 「高松市戦争遺品展」（来庁者に向けての解説ボランティア） ●9/26 香東中学校 3年生を対象に ●10/29 三豊市上高野小学校 6年生を対象に ●10/30 平和病院 新年度採用職員に向けて ●11/19 亀阜小学校 2年生を対象に ●12/3 亀阜小学校 3年生を対象に ●1/6 「教職員のための平和教育講演会」（“慰霊碑への供養”と題して）
小西 弘和	●6/26 香川大学医学部 看護師養成学部学生を対象に ●1/14 木太南小学校 5年生を対象に
戸祭 恭子	●6/30 香川民医連入職2年目の職員を対象に、高松空襲の跡地を巡りながら ●7/29,31 「高松市戦争遺品展」（来庁者に向けての解説ボランティア） ●10/30 香川民医連入職2年目の職員を対象に、高松空襲の跡地を巡りながら

探しています！

高松市では、引き続き戦争中の生活の様子を伝える資料等を収集しています。特に、玩具、蓄音機、戦時中のことが記載された記念誌や自分史等ございましたら、ご一報ください。皆様からのご提供をお待ちしています。

ご寄贈いただいた資料は『戦争遺品展』等で展示するほか、一部貸し出しもしておりますので、詳細は人権啓発課・平和記念係までお問い合わせください。

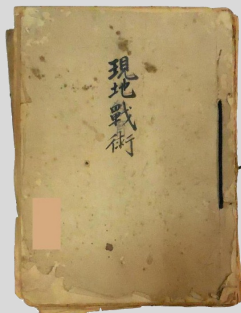


収蔵品紹介48 ≪最近の収蔵品より≫



【現地戦術（訓練教本）】 提供者 吉村 様（兵庫県西宮市）

戦術教育とは軍学校において、将校に対する戦術の教育のことである。その内容として、図上戦術・現地戦術・兵棋・戦史教育がある。現地戦術とは実際に現地に赴き、現地の状況に基づいた想定が設けられ、その想定に基づいた戦術的な問題に対する討議や現地観察によって解答を作成する教育である。士官として求められる観察力や実践的な思考様式を身につけるための応用的な教育である。この教本も年代は不明だが2月の神奈川県に始まり、10月末の満州での訓練について記載されている。



提供者の父親は、戦争でシベリアに抑留されて終戦を迎えている。寡黙な人で戦争の話は亡くなるまで一切しなかったそうだが、引き出しの奥に大切に残していたのには、深く強い思いがあったに違いない。

【従軍記章】 提供者 杉本 様（大阪府高槻市）



日清戦争の戦勝を表彰するために、明治28年10月勅令143号で制定された従軍記章で、清国から捕獲した青銅砲の地金をもって製造したもの。

記章 ⇒ 宝珠の形をとり、表面に菊の御紋、陸軍連隊旗と海軍軍艦旗とを交差させたデザインで裏面には「明治二十七八年従軍記章」と記入している。銅飾版には文字は入っていない。

綬 ⇒ 幅36ミリのリボンは三等分されて、中央は白、両側は緑色

【一般用米穀類購入通帳】 提供者 藤田 様（愛媛県松山市）

1942年4月から食糧制度の下で、米の配給を受けるために発行されていた通帳。1981年6月11日の食糧管理法の改正により廃止された。寄贈いただいた米穀通帳は昭和42年11月から44年11月までのもので、当時はヤミ米が公に販売されており政府の配給米は有名無実になっていた。米屋に注文しても「そんなものありませんよ」と言って米を家まで届けてくれた。ほとんどの人は一度も通帳を使用することはなかった。



編集メモ



高松市の戦争遺品収集につきまして、昨年の7月25日のNHKニュースに取り上げられたことをNo.53号で紹介いたしました。今回の収蔵品紹介は、その放送を見て寄贈いただいた県外からの収蔵品を取り上げました。「展示の一部になれば、また平和教育に役立てば」という思いでお送りいただいたもので、これまで多くの方々から寄贈いただいた収蔵品同様大切に保管し、後世に伝えたいと思います。そして、これからも戦争の悲惨さ、平和の尊さをしっかりと伝える所存です。

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業をご覧くださいませ）

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18976.html>